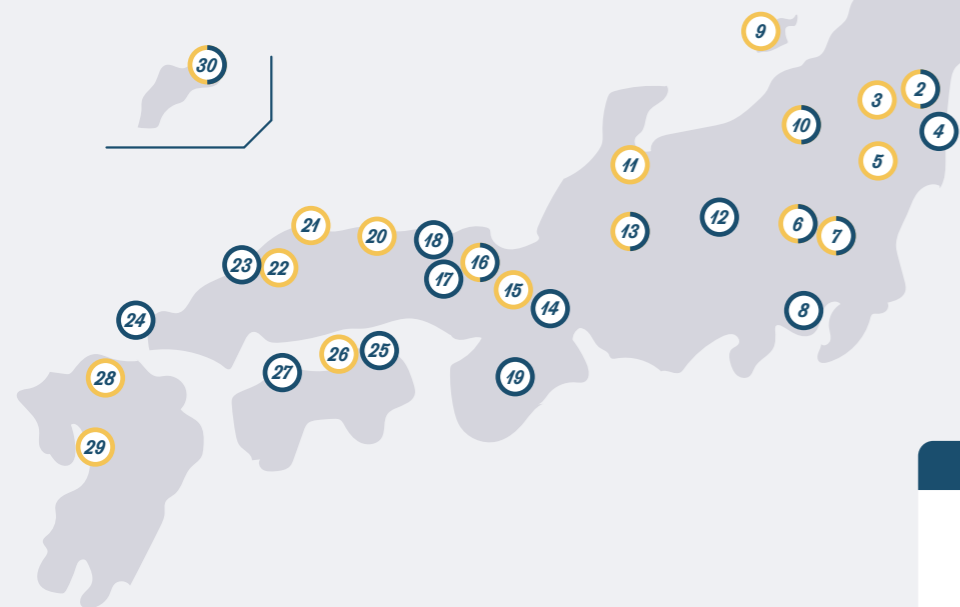


# モデル実証事業 採択地域一覧

令和4年度は地域との関わりの創出、滞在環境や移動のアシの確保などに対するモデル実証事業(19地域)を、令和5年度は来訪の度に新たな体験ができるかや来訪後にどれだけ地域と接点を持てるか等の関心の継続性に着目したモデル実証事業(18地域)を実施しました。令和6年度は、継続的かつ多頻度での来訪を通じた交流人口及び関係人口の拡大や地域活性化につなげる取組を行うものとなります。

令和4年度… ○ 令和5年度… ○



## 事業者一覧

- 1.北海道川上郡弟子屈町(令和4年度)
- 2.福島県福島市ほか(令和4年度/令和5年度)
- 3.福島県耶麻郡磐梯町(令和4年度)
- 4.福島県双葉郡葛尾村(令和5年度)
- 5.栃木県那須郡那須町(令和4年度)
- 6.埼玉県秩父市ほか(令和4年度/令和5年度)
- 7.埼玉県比企郡小川町(令和4年度/令和5年度)
- 8.神奈川県足柄上郡大井町(令和5年度)
- 9.新潟県佐渡市(令和4年度)
- 10.新潟県南魚沼市ほか(令和4年度/令和5年度)
- 11.富山県、福井県、鳥取県(令和4年度)
- 12.長野県小県郡長和町(令和5年度)
- 13.岐阜県下呂市(令和4年度/令和5年度)
- 14.滋賀県栗東市(令和5年度)
- 15.京都府京都市右京区(令和4年度)
- 16.京都府南丹市美山町(令和4年度/令和5年度)
- 17.兵庫県丹波篠山市(令和5年度)
- 18.兵庫県美方郡新温泉町(令和5年度)
- 19.奈良県吉野郡吉野町(令和5年度)
- 20.鳥取県鳥取市ほか(令和4年度)
- 21.島根県松江市ほか(令和4年度)
- 22.島根県邑智郡邑南町(令和4年度)
- 23.島根県江津市ほか(令和5年度)
- 24.山口県下関市(令和5年度)
- 25.香川県仲多度郡琴平町(令和5年度)
- 26.香川県三豊市(令和4年度)
- 27.愛媛県西条市ほか(令和5年度)
- 28.福岡県朝倉郡東峰村(令和4年度)
- 29.熊本県阿蘇郡南阿蘇村(令和4年度)
- 30.沖縄県国頭郡国頭村ほか(令和4年度/令和5年度)

観光庁 観光地域振興部 観光資源課

E-MAIL: hqt-okaeri@ki.mlit.go.jp URL: https://www.mlit.go.jp/kankocho/

発行年月: 2024年3月

第2のふるさとづくり  
プロジェクトに関する情報を  
公開しております。  
ご参照ください。

## Information



「第2のふるさとづくり  
プロジェクト」  
に関する有識者会議

本プロジェクトの取組の方向性や具体的な取組内容について検討を行うため、有識者会議を開催しています。



第2のふるさとづくり  
推進ネットワーク  
登録申請フォーム

本プロジェクトに関心のある地方公共団体、観光地域づくり法人(DMO)、民間事業者等による情報交換の場として「第2のふるさとづくり推進ネットワーク」を開設。登録は申請フォームよりお願いします。



「第2のふるさとづくり  
プロジェクト」公式  
Instagramアカウント

本プロジェクトを広く知っていただくことを目的に、第2のふるさとを楽しむ人たちの姿をInstagramにて発信しています。

何度も地域に通う旅、帰る旅

# 第2のふるさと

A NEW HOMETOWN



令和4年度よりモデル実証事業を実施している「第2のふるさとづくりプロジェクト」。「何度も地域に通う旅、帰る旅」という新たな旅のスタイルを推進・定着させ、交流・関係人口のさらなる創出と地域活性化を目指しています。



# 第2のふるさとづくりプロジェクトとは

「何度も地域に通う旅、帰る旅」という新たな旅のスタイルを推進・定着させ、交流・関係人口のさらなる創出と、地域活性化を目指すものです。



## 地域との繋がりに着目した新たな旅のスタイル

これまでの旅とは異なる「何度も地域に通う旅、帰る旅」。地域との関係性が段階的に深まることで、継続的かつ多頻度での来訪を促進する新たな旅のスタイルです。



### POINT.1

#### 地域とのつながりを求める潜在的な需要

- ・リモートワーク等働き方や住まい方に関する意識の変化
- ・他者とのリアルなつながりを求める動き
- ・自然環境に触れたいというニーズや田舎に憧れを持つ若者の増加

### POINT.2

#### 第2のふるさとづくりによる関係人口化の可能性

- ・地域資源に触れ、地域との関係性や参画が段階的に深まることで、自発的な来訪の高頻度化や滞在の長期化等を誘発する可能性がある
- ・関係人口や多地域居住・二地域居住・移住層へ緩やかに移行する可能性がある

観光客が関係人口や多地域居住・二地域居住・移住層に緩やかに移行するプロセス（仮説）

	根源的 共同性	場の 共同性	自覚された 共同性	目的を持った 共同性
生存/ 安全	観光			
愛/ 帰属		ロイヤル カスタマー		
承認			関係人口	
自己表現				二拠点・ 多地域 居住人口

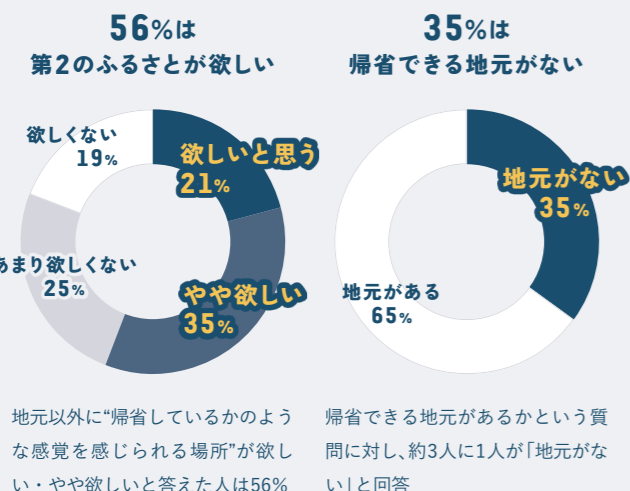
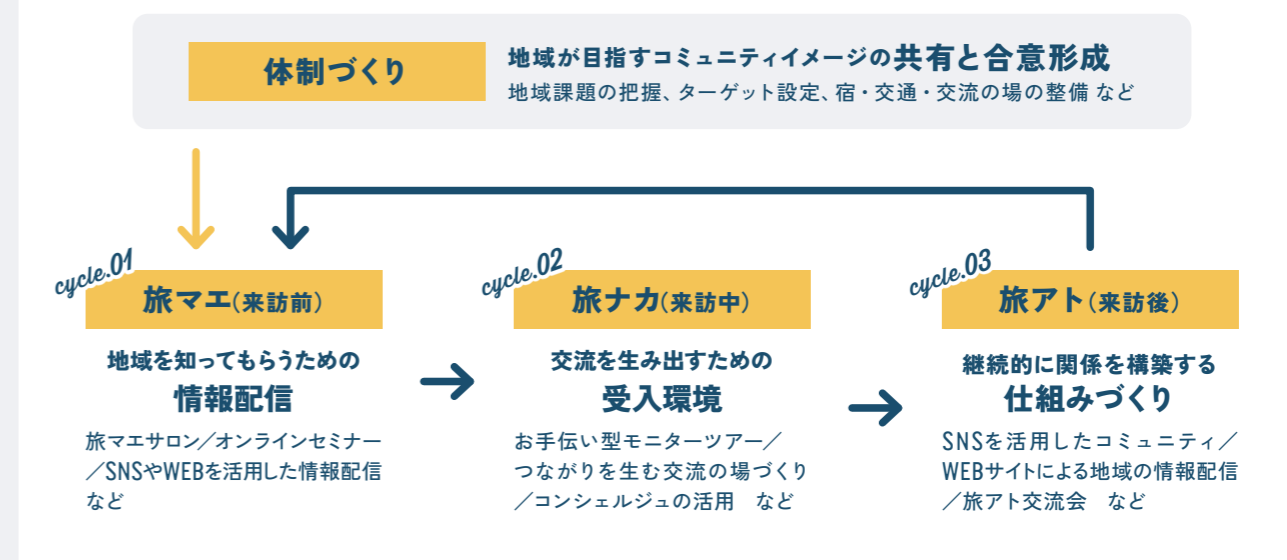
※ 来訪の高頻度化・長期化・地域での個人消費額増

### POINT.3

#### 第2のふるさとづくりプロジェクトモデル実証事業の取組

本事業が目指す地域資源を活用した新たな仕掛けづくりや地域活性化、再来訪による交流・関係人口の拡大のために、旅マエ・旅ナカ・旅アトの3つの観点で切れ目のない取組をしています。

#### 再来訪を生み出すための循環型サイクル



出典：『週刊じゃらん』調べ「新しい帰省スタイルに関する調査」

※ 坂倉杏介、保井俊之、白坂成功、前野隆司「『共同行為における自己実現の段階モデル』による『地域の居場所』の来場者の行動分析：東京都港区「芝の家」を事例に」（2012）を参考に観光庁作成

令和3年10月に本プロジェクトに関する有識者会議を設置し、取組の方向性等を整理した上で、令和4年度より先進事例の創出に向けて、実証事業を実施（P08モデル実証事業採択地域一覧参照）。

# 第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

## 令和4年度、令和5年度 モデル実証事業の 取組例

来訪者が地域の資源や人に触れ、地域との関係性を深め、継続的かつ多頻度での来訪を促す新たな旅のスタイル、第2のふるさとづくりを推進しているモデル実証事業の一例を紹介します。

### Case.01 新潟県南魚沼市ほか

Theme.

「地域に何度も通う旅・帰る旅」を持続可能かつ再現性高く、広域エリアに浸透させるためのビジネスモデル構築事業 in 雪国観光圏

## 関係性を育む「場」と「お手伝いワーク」 による第2のふるさとづくり

一般社団法人 雪国観光圏 (令和4年度、令和5年度)

雪国観光圏とじゃらんリサーチセンターが取り組む本事業。「地域に何度も通う旅・帰る旅」をテーマに、令和4年度にはハウスワークを手伝いながらハウスステイ(宿代無償)するという宿泊滞在拠点「さかとケ」を造成。令和5年度には、さらに4拠点を拡充。また、関係性を生み育むサークル活動的な「コト(企画)」づくり、関係性クリエイター人材やCRM等も拡大し、来訪による交流人口・関係人口の拡大、来訪頻度の増加、滞在の長期化、地域との多様な接点づくりなどの実証実験を行なった。



### Case.04 兵庫県新温泉町

Theme.

地域課題で繋がる「しんせき学び旅プログラム」。バスのサブスクでより身近に、より通いやすく。

## 冒険者として地域課題解決に 取り組む第2のふるさとづくり

全但バス株式会社 (令和5年度)

新温泉町を第3の親戚がいる町とし、親戚の困りごとや地域課題を解決することで、自分自身の学び直しやリスクリングに繋げる「しんせき学び旅プログラム(ローカルクエストin新温泉町)」を創出した同事業。参加者が冒険者として、地域住民や地域で活動するプレイヤーと共に、地域課題解決に取り組むというプログラムを実施。また、地方部への移動に関する負担について、バスのサブスクプラン「新温泉町たんけんバス」の販売実証に取り組み、通いやすさを担保するとともに再訪の効果を検証した。



### Case.05 愛媛県西条市ほか

Theme.

ヒトが主役!住民総キャスト化によるライフスタイル型地域観光・滞在スタイル創出事業

## 「人」に会いに来る旅」スタイルでの 第2のふるさとづくり

株式会社ソラヤマいしづち (令和5年度)

いしづちエリアの最大の魅力は地域で生活する人(地域キャスト)であると捉え、住民のライフスタイルをコンテンツ化した滞在スタイルを提供し、地域への愛着や地域コミュニティへの帰属を生むことで、再来訪と関係人口の構築を目指した同事業。西条まつりでは本番前と本番のモニターツアーを実施。1回目は地域コミュニティに参画し、相互理解を高め、地域の方との関係性を構築。地域コミュニティにスムーズに入り込めるようになり、2回目となる当日は現場の手伝いや担ぎ手となることで一層地域への愛着を高めることができた。



### Case.02 京都府南丹市美山町

Theme.

地域に通う、心が通う、課題解決型ラーニングツーリズム～来訪者と地域住民が育てる第2のふるさと～

## 地域行事への参加とラーニングツーリズムによる第2のふるさとづくり

(一社)南丹市美山観光まちづくり協会 (令和4年度、令和5年度)

教育機関を新たな観光のターゲットとし、美山町全域を学習のためのキャンパスと設定。地域密着の「課題解決型ラーニングツーリズム」を実施することで再来訪、移住に繋げるプログラムテーマを掲げた同事業。観光コンシェルジュ講座や、来訪者が事前に地域事情を理解できるように学習パンフレットなどを作成し相互理解を促進。地域内の活動に来訪者も参加できるよう、地域振興会と連携して茅刈り等をコンテンツ化するなど、地域への「関わりしろ」や地域住民との偶発的な出会いや交流の時間を創出した。



### Case.03 福島県福島市ほか

Theme.

信達地方の蚕の糸が結ぶ文化と人～シルクロードが導く新たなふるさとづくり～

## 養蚕を学ぶ交流プログラムによる 第2のふるさとづくり

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会 (令和4年度、令和5年度)

来訪者が昔ながらの手仕事を文化として残していく活動と一緒に取り組むことで、目的ごとの短期～中長期滞在プランを創出した同事業。農家民泊によって食文化と人との交流が生まれたことでより親近感が増すこと、そして、蚕の成長段階ごとのモニターツアーの開催や単日では技術習得が難しい織物教室を提供することが、再来訪の動機づけとして有効であることがわかった。また、再来訪を促すイベントとして「ふくしま絹の道フェスタ in 飯坂温泉」を開催。体験提供やスタッフ用の食事づくり、出店や展示などに関わる再来訪者も生まれた。



### Case.06 香川県琴平町

Theme.

濃度・深度にマッチした関係人口データベースを構築 琴平町観光マーケティング実証事業

## ターゲットごとのモデルツアー 造成による第2のふるさとづくり

株式会社地方創生 (令和5年度)

フロー型からストック型への新しい観光(琴平モデル)の定着、関係人口の輪を広めるため、現地の実業家や企業との交流を通じたビジネス機会創出のプログラムを実施した同事業。ターゲットを「Z世代(特に大学生)」「首都圏在住の会社員、フリーランス、経営者等」「大企業会社員」の3つに分け、体験型コンテンツや地域課題解決ワークショップによる地元事業者との交流機会を経て、濃厚な人間関係を築く仕掛けづくりを行った。結果、ツアー参加者が非ツアー参加者を連れて再来訪したほか、移住者も生まれた。



### Case.07 島根県江津市ほか

Theme.

学びと冒険の旅創出プロジェクト～江の川なりわいブートキャンプ～

## 生業(なりわい)の学びと創出による 第2のふるさとづくり

(一社)江の川・さくらライン観光推進機構 (令和5年度)

江の川流域に多数存在する事業継続に困難を抱える現場を、新たなイノベーション創出の可能性を内包する地域資源と定義し、地域での副業・起業人材の呼び込み、さらなる外部人材の獲得を目指した同事業。メインターゲットを現役のビジネスマンと設定し「なりわいブートキャンプ～江津編・温泉津編～」を実施。旅アトには参加者とアテンダーによるオンラインコミュニティ(「なりわい会議」)でのミーティングを実施。コミュニティ化を図ることに成功し、結果、複数名の移住者と再来訪者が生まれた。

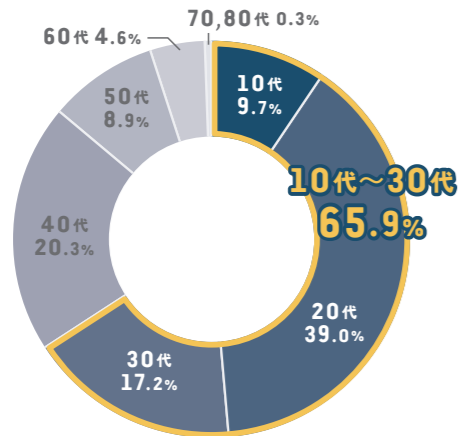


# モニターツアー参加者アンケート調査結果

令和5年度採択実証事業者18地域にて実施したモニターツアー参加者（初来訪1,281名 再来訪279名 計1,564名）に対して行なったアンケート調査結果を紹介します。

## Q. あなたの年齢をお選びください

回答者： **初来訪者** **再来訪者**

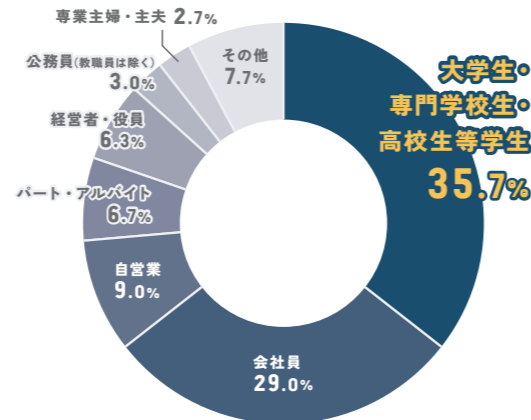


まとめ

モニターツアーに参加した方の年齢層は、10代から30代までで約3分の2、10代から20代までで約半数を占めており、若者世代が中心であった。

## Q. 職種について該当するものをお選びください

回答者： **初来訪者**



まとめ

職種別では、「大学生・専門学校生・高校生等学生」が最多だが、次いで会社員が多い(29.0%)。職業形態としては、「土・日・祝日が休み」と回答する者が最多であったが(33.4%)、次いで「自由に休みを決められる(14.9%)」「不定休(14.5%)」「テレワーク可(11.4%)」と回答する者が多かった。

## Q. 今回のモニターツアーに参加し「大変満足した」「満足した」と回答した方の理由

回答者： **初来訪者**

回答上位5つ

- ・もう一度会いたいと思える人ができた **56.2%**
- ・新しい知識や経験を得ることができた **55.2%**
- ・地域の人と交流することができた **54.2%**
- ・地域に愛着を持つことができた **53.7%**
- ・リラックスできる場所を見つけた **45.3%**

まとめ

今回のモニターツアーで「大変満足した」「満足した」と回答した者のうち、「リラックスできる場所を見つけることができた(45.3%)」「地域に愛着を持つことができた(53.7%)」「もう一度会いたいと思える人ができた(56.2%)」と回答する者は他の項目に比べて比較的多く、「リラックスできる場所」「地域への愛着」「もう一度会いたいと思える人」は第2のふるさとづくりにとっての重要な要素となることが伺える。

## モニター参加者の方々のコメント

来訪地 **新潟県南魚沼市ほか**

### 普段の旅行+αの体験

普段の旅行では宿の方とじっくりお話をすることがないので、今回のプロジェクトではただ旅行するだけでなく、もう一步踏み込んでその地域や宿と関わるような貴重な体験ができました。

40代/女性  
居住地：東京都

来訪地 **滋賀県栗東市**

### 人のつながりが感じられた

元々地方出身なので地域での生活が好きでした。今回モニターツアーに参加して、周りの方々の温かさに触れたり地域の文化を体験することができ、都会にはない人とのつながりが感じられたことが非常に魅力的でした。

20代/男性  
居住地：東京都

来訪地 **兵庫県丹波篠山市**

### 生き方を学べた旅

宿泊先や案内してくれた陶芸家の方々に若い方が多くて安心しました。皆さん人柄も良く、若いのにしっかりしていて、人生観や生き方から学ぶことが多かったです。初めてののろくろ体験も予想のはるか上を行く楽しさでした。

30代/女性  
居住地：青森県

## Q. 今回のモニターツアーの参加にあたって、どのような点を期待して参加されましたか？（複数回答可）

回答者： **初来訪者** **再来訪者**

初来訪者 回答上位5つ

- ・新しい知識や経験を得たい **47.6%**
- ・地域の人と交流したい **39.9%**
- ・地域課題の解決など地域のためになることがしたい **36.1%**
- ・愛着を持つことができる地域を見つけたい **35.1%**
- ・地域づくりやイベントの手伝いをしたい **31.8%**

再来訪者 回答上位5つ

- ・地域づくりやイベントの手伝いをしたい **41.5%**
- ・新しい知識や経験を得たい **37.7%**
- ・愛着を持つことができる地域を見つけたい **34.0%**
- ・地域課題の解決など地域のためになることがしたい **34.0%**
- ・地域の人と交流したい **32.1%**

まとめ

初来訪時は「新しい知識や経験を得たい」という回答が最多であった。「地域づくりやイベントなどの手伝いをしたい」という回答は初来訪者は31.8%であったが、再来訪者の回答は41.5%と再来訪時に地域貢献を求める者が多かった。

来訪地 **香川県琴平町**

### 町民のように受け入れられた

地域の温かさを感じました。町長を含めて地域の人々が新しく来た人を、一人の町民のように迎え入れてくれました。

20代/男性  
居住地：千葉県

来訪地 **福島県福島市ほか**

### 昔ながらの料理でおもてなし

歴史ある素晴らしい農家の宿が良かったです。採りたての新鮮な野菜を、昔から受け継いできた様々な調理法で料理してくれました。オーナーの人柄も良く、心温まる居心地の良い空間でした。また帰りたくなる場所でした。

40代/女性  
居住地：栃木県

来訪地 **京都府南丹市美山町**

### 人々の熱意を強く感じた

茅刈りの大変さを、今回初めて体験して痛感しました。また、地域を守っていくとする人々の熱意を強く感じました。

20代/男性  
居住地：愛知県



参照：第8回「第2のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議資料